

## 【応用技術編】

## 日本庭園の「こころ」と「わざ」を建築内で表現した京都駅前地下街ポルタでの事例

Spirit and skills of Japanese garden expressed in a building interior at the Kyoto Station square underground shopping center, Porta

渡辺 伸也\* 加藤 友規\* \*\* 山口 満\*

Shinya WATANABE\* Tomoki KATO\* \*\* Mitsuru YAMAGUCHI\*

**Abstract:** While opportunities to create pure Japanese gardens are decreasing, there are more chances to create spaces that utilize Japanese garden elements in places such as villas, hotels, and commercial facilities. Our company recently received a request to create a Japanese garden-based space in a commercial space integrated with Kyoto Station, which may be called the entryway into Kyoto. We were involved in the planning, design, and stone flooring construction for this project. Here we report on the “spirit and skills” used in this work.

**Keywords:** Japanese garden, building interior, spirit and skills, allusion, commercial facility, pavement safety

**キーワード:** 日本庭園, 建築内, 「こころ」と「わざ」, 見立て, 商業施設, 舗装の安全性

## 1. はじめに

日本庭園は日本の文化的要素を代表するものの一つであり、日本及び世界で親しまれている。また社会経済上、屋外にて日本庭園を作庭する機会は減少傾向にある中、別荘やホテル、商業施設などで、日本庭園的な要素をいかした空間・デザインが設けられる機会が増えている。このような社会状況の中で、京都の玄関といえる、京都駅前の地下にある商業空間にて、日本庭園をイメージした「京のお庭」の空間をつくるという御依頼をいただき、造園意匠監修および石工工事の設計・施工を担わせていただいた。ここではその「こころ」と「わざ」について報告する。

## 2. 基本計画・基本設計

『作庭記』の冒頭には、「国々の名所（なごころ）を思い廻らして、おもしろき所々を我がものになして、大姿をその所々に準（な）ずらえて、和らげ立つべき也。」と庭づくりの主旨が記されており、いわゆる「縮景」の「こころ」と「わざ」が平安時代から存在していたことが分かる。ここ「京のお庭」では、京都に住んでいる人、また京都を訪れる人に、室内で「お庭の空間」を感じて、楽しんでいただけるように、下記のような手法を用いた。

### (1) 構想

日本庭園の、すぐれた景観を小さく凝縮してお庭に取り込む「縮景」の伝統的な技法を活かし、対象地を山紫水明の京都の町の縮景の庭園空間とした。空間内（庭園内）の南北に水の流れに見立てた床面を設けてそれを鴨川とし、東側の立面のガラス扉には東山三十六峰の山並みを、北側には北山準平原の山並みを表現した。

### (2) 床面の安全性

商業施設であり、駅への通行動線という公的空間でもあるため、床面の平坦性、すべり対策など、安全歩行が最重視される。そこで、石の風合い・テクスチャーを生かしながら、安全性が確保されることを前提に、石材・仕上げ・配置・寸法・目地などを検討した。

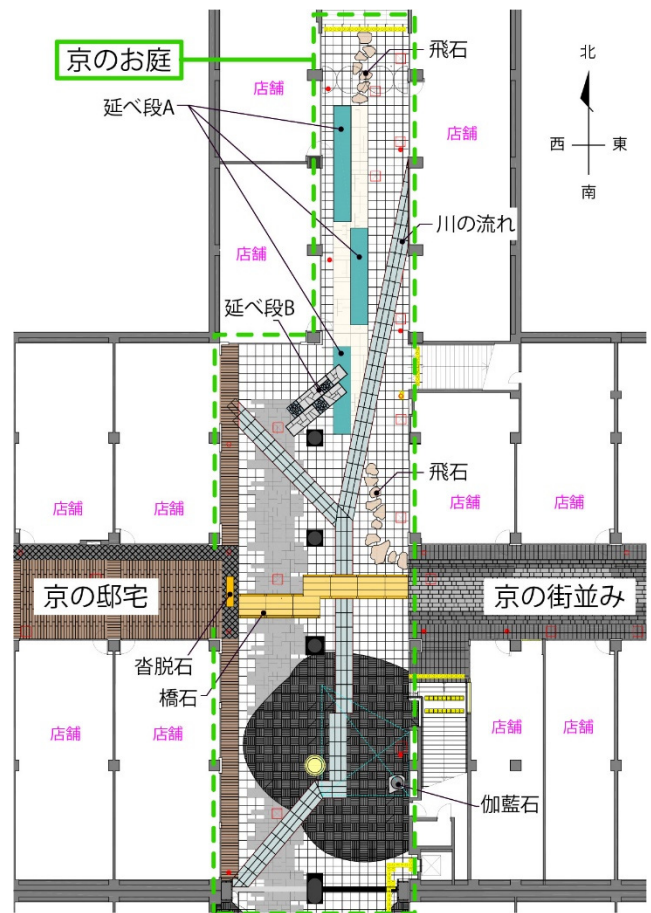


図-1 対象範囲平面図

[https://www.porta.co.jp/portadining\\_spacedesign/](https://www.porta.co.jp/portadining_spacedesign/)

\*植彌加藤造園株式会社

\*\*京都芸術大学大学院

\*Ueyakato Landscape Co., Ltd.

\*\*\*Kyoto University of the Arts



写真-1 改修前



写真-2 既設舗装の撤去後（凹みは石工事範囲）



写真-3 石工事の作業状況



写真-4 改修後

### 3. 具体手法（石材選定・実施設計・施工）

商業施設のリニューアル工事であるため、工事期間をできるだけ短くする必要性や、開業中の店舗が隣接していることでの工期・騒音・粉塵・搬入などの制約・条件に対応すべく、現場着工前、石材の仮並べや加工・番号付け・一部のユニット化を進め、その上で現地施工に臨んだ。

石の周りの床面タイル（別業者様の施工）や、石同士の目地で、歩行の支障となる段差ができないよう、石の据え付けや、据え付け後の石の周辺を手仕事で擦り合わせるなど、工夫と心配りをして施工を行った。

#### （1）川の流れ

日本庭園では水を使わずに白砂で水を表現する「枯山水」という手法があるが、ここでは室内床面という条件に合わせ、水や砂に代わる方法を検討し、自然石の板石に、模様を彫り込む手法で水を表現した。

流れの文様として、下流は穏やかで、川沿いのサクラの散った花びらが鴨川を流れる意匠とした。またYの字の分岐点は、賀茂川と高野川が合流する鴨川デルタを表して、出町柳のヤナギの木と、亀の飛石を表した。さらに上流は山並みの間を抜けるように少し激しく蛇行する流れで、川沿いには山のモミジの文様を施した。

#### （2）延べ段

通行の安全性を確保するため、長野県にて諏訪鉄平石や信州志賀石の計3箇所丁場から仕上げ面が平らで色調が良く、また空間の広さに負けないようできるだけ大判の石を選び出し、熟練の職人が形や色のバランスをみながら石の配置を決め、施工した。小さい区画については工期短縮のため、事前に石を組み合わせて一体化するユニット工法を採用し現場に据え付けた。

#### （3）橋石・沓脱石

京都の市中や、日本庭園に設けられている、流れの上にかかる橋石を、2種類の仕上げを用いて表現した。橋を渡った先には、同じ石材を使った沓脱石を設け、隣接する「京の邸宅」ゾーンの入り口を表現した。

#### （4）飛石

石材は兵庫県の丹波地方で算出される丹波石を用い、その中でも大判で平らな石を厳選して使用した。石の自然な表情（節理面）を用いつつ、石自体は完全に平らではないため、段差が出来ないように、特に高さの合わせ込みに苦心した。

タイル施工業者により、石の周りはタイルの絶妙なひかりつけが行われた。

#### （5）伽藍石

一般的には柱をのせる部分が円形で高くなっているが、ここでは通行の安全性を確保するため、平らな石の外周を薄く彫り、伽藍石の円形を表現した。石材は飛石と同じ丹波石を用いた。

### 4. おわりに

日本庭園を京都駅前の「屋外」に作庭することは、立地や運営管理、コスト等の面から現実的に困難といえるが、その地下に、日本庭園をイメージした空間が、造園技術者も参画したプロジェクトで創出されたことは、日本庭園の「こころ」と「わざ」を展開するあらたな取り組みにもつながったのではないかと考えられる。

庭園を創る現場は屋外とは限らない。屋内屋外を問わず、今、世界中で、日本庭園の伝統を踏まえたランドスケープが求められている。それを実現するための革新的なデザインと技術が益々必要となり、ランドスケープ空間の持つ可能性の開拓が期待される。

謝辞:このような機会を与えてくださったJR西日本京都SC開発株式会社様、また計画から工事に至るまでマネジメントをしてくださった株式会社丹青社様に改めて御礼を申し上げます。



写真-5 川の流れ石, 橋石, 飛石



写真-9 延べ段と, 東側ガラス扉に東山の山並み



写真-6 川の流れ石



写真-10 北側の飛石と, ガラス扉に北山の山並み



写真-7 沓脱石 (手前) と橋石

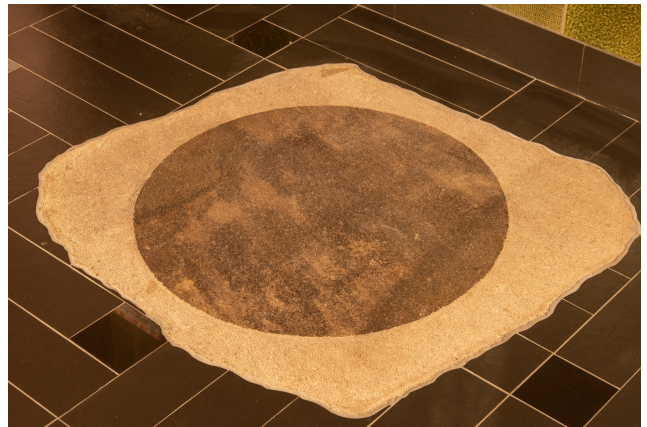


写真-11 外周を薄く彫り込んで制作した伽藍石 (見立て)



写真-8 飛石の擦り付け

名称：京都駅前地下街ポルタ 西エリア リニューアル工事  
 所在地：京都市下京区東塩小路町 902 番地  
 事業主：JR 西日本京都 SC 開発株式会社  
 共用部全体の内装監修・設計・施工：株式会社丹青社  
 共用部のうち「京のお庭」の造園意匠監修  
 および石工事の設計・施工：植彌加藤造園株式会社  
 規模：「京のお庭」計画面積約 630m<sup>2</sup>, 石工事面積約 140m<sup>2</sup>  
 期間：2020 年 10 月 13 日～2022 年 8 月 22 日